

## 令和3年度 第1回宇治市男女共同参画審議会の会議録（要約版）

日時	令和3年8月3日（火）午後2時～3時50分
場所	宇治市男女共同参画支援センター4階 会議室1
出席委員	桂会長、藤本副会長、居原田委員、寺崎委員、中本委員、西村委員、丹羽委員、長谷川委員、浜野委員、日野委員
事務局	福井人権環境部長、前田人権環境部副部長、藤井男女共同参画課長、二木男女共同参画課主幹、野田男女共同参画課専門員
議題	<審議事項> ・第4次U J I あさぎりプラン（宇治市男女共同参画計画）令和2年度実施状況調査結果及び第5次U J I あさぎりプラン令和3年度事業実施計画について
傍聴者	1名

### 会議経過及び内容

（オンラインと会場の併用で開催）

1. 部長あいさつ
2. 議事

「第4次U J I あさぎりプラン（宇治市男女共同参画計画）令和2年度実施状況調査結果及び第5次U J I あさぎりプラン令和3年度事業実施計画について」説明し、委員から次のとおり意見が出された。

#### 主な意見

- 第5次U J I あさぎりプランは、今年度から始まり半年ほどたっているが、残りをやっていくというのか。

⇒前半は新型コロナの影響もあったので、これから進めていく事業も多数ある。

- コロナの中で女性が翻弄されている状況で、新聞報道等によれば全国で女性の自殺者が増えている、また急増している悩み相談の8割が女性、DV被害者からの相談も増えているといわれているが、宇治の状況はどうなっているか。15ページのDV相談件数は減少している。全国とまた違う状況なのか。女性のための相談の件数は増加しているが、そこにDVは含まれているのか。

⇒女性のための相談215件のなかにDV相談が含まれている。DV相談は主訴がDVである。離婚や、夫との関係が主訴の相談の中には、背景にDVが含まれていることがあり、背景にDVがある相談を合わせると100件がDVに関わる相談となっている。

- コロナ禍でDVにあっている人も、夫が家にいるため相談の電話がしにくいということも聞く。そ

のような事情もあるかもしれない。男性の相談が増えているが、傾向として何かあるのか。

⇒男性電話相談になるが、昼間に男性からの相談があることもあり、その場合は臨時相談とし聞いており、それが増えたと思われる。夫婦関係や、家族、借金のこと等だったが、夫婦関係の相談が多かった。

●アンケートの自由記述は興味深い。アンケートをとることによって、こういうことを宇治市がやっているのを初めて知ったという方もいて、気づいていただく効果があり、良いことだと思う。

●27ページの政策方針決定過程の女性参画拡大のところ、審議会の女性委員の登用では人数と割合があるが、管理職のところは人数だけになっているので、割合も書いた方がわかりやすいのではないか。

⇒現在の80人は、22%である。7年度の目標が25%となっている。わかりやすい標記を検討する。

●相談事業について、婚姻関係にある方々の相談が多かったようだが、若年層からの相談はどうか。コロナの影響で、経済的な不況で若年女性にしわ寄せがいつているようだが、声を吸い上げるツールがない。宇治市ではそういう問題を把握されていないのか。何かわかることがあれば教えて欲しい。

⇒女性の相談は昨年度から1.1倍の増加で大きく増えてはいない。報道の中ではDVの相談件数が大きく増えたと聞いている。近隣市町村でも、相談件数はそれほど増加していないということである。若い女性の自殺も増えており何故かと考えているところである。市の窓口は敷居が高いという声も聞かれるので、今後は若い世代がつながりやすい、気軽に相談できる仕組みづくりを進める必要があると考えている。

●若年層の相談は少ないという認識か。

⇒若年層で相談につながるケースは、保健推進課やこども福祉課からつながるケースが多い。30代、40代は自身で相談されるケースが多い。若年層はどこに相談をすればいいのかわからないのかもしれない。

●若い女性、例えば学生で、アルバイトで何とか生活費を稼いでいた女性たちが、生理用品も買えないという「生理の貧困」という問題があるのではないか。

⇒いわゆる「生理の貧困」と言われているが、直接窓口でそのような相談をうけたことはない。生活困窮が背景にあるので、必要となる福祉の窓口につないでいくことが重要と考えている。

●窓口に来られないで困っている人はひろえない。他市の取組だが、市として防災のストックの生理

用品を若い人が出入りする学校関係にあずけることによって、いき渡るようにしていると聞いたことがある。窓口に来なくても困っている人をどうサポートできるかという工夫が必要かもしれない。自分から電話しなくても保健推進課などどこからつながっていけばよい。それを男女共同参画課が把握し、次のとりくみにつながっていけばよい。ハードルが高いので必ずしも相談窓口に現れなくても、どういう風に支援を届けるのかはもう少し工夫が必要だ。

⇒29ページの真ん中あたりに「相談体制の強化」と記載をしているが、本年度から相談担当の女性問題アドバイザーを設置した。家庭訪問に同行する、市役所の窓口に必要なであれば呼んでいただいて相談に応じるということを現在関係課に説明に回っているところである。アドバイザーが中心となり庁内各課、関係機関は連携を密にしてつながりやすい仕組みを作っていこうというものだ。また、ゆめりあうじの相談窓口を周知していく必要があるので、シールや啓発物品等を用意して市民への周知に努めていきたい。

●政策や方針決定の過程での女性の参画が、宇治市の管理職の中でまだまだ進んでいない実感がある。いろいろな委員会に参加している中で男性がとても多く、市の総合計画審議会の中でも部長は男性ばかりである。部長クラスに女性を登用していただきたいと感じている。力のある女性がたくさん働いているので、部長以上の職について活躍してもらいたい。また、DVが埋もれてしまっているのではないかと危惧している。宇治市社会福祉協議会の評議員をしているが、相談件数が非常に増えていると報告を受けた。社協との連携も強化してもらいたい。26ページの真ん中あたり中学生向けの男女共同参画ハンドブックの活用があるが、どのようなものか教えていただきたい。というのも、この年代でしっかりと男女共同参画を知り、大人になったときに思い出してもらえるよう中学生の時に説明するのが大切と思う。12月のあさぎりフェスティバルの時に市内の中学生に1ブース担当してもらって発表してもらうとか、意識の高い男女が集まるイベントなので、若い人が来る仕組みを考えてもらいたい。

⇒中学生向けのハンドブックは10年ほど前に学校の先生と協力をして作成した。男女ではなく、自分らしく生きられるようにすること、子どもの権利条約、各職業での女性の割合、デートDV、おすすめの本等を掲載している。細かい更新は毎年行ってきたが、中身の変更はしてこなかったので、性被害のこと等今話題になっていること等を掲載するというのを教育委員会と相談しているところである。人事関係については人事課の方に伝えていく。社会福祉協議会については、女性のための相談ネットワーク会議に入っているため、情報を共有していきたい。あさぎりフェスティバルの中学生の参加についても、あさぎりフェスティバルの実行委員会に投げかけて検討していきたい。

●相談事業のことだが、若年女性のコロナ禍での影響は出てくるキーワードがあって「どんなに困っていても頼れる人がいない」「助けてといえない」という言葉がよく出てくる。実際には風俗関係の方がずっと巧みに助けてくれる。負けているわけにはいかないという気がする。その時に気になるのは「相談」という言葉である。「相談」という発想が若い女性にあるのかどうか。いいアイデアはないのだが、若い女性に対してもっと伝わるような言葉の工夫が必要だ。「頼れるんだよ」とか「助けてとっていいんだよ」ということが伝わる表現が大事になっている。その感覚が我々の年齢と違うのではないかと思う。

●市がウイメンズカウンセリング京都に依頼して作成した、DVの啓発動画は非常に良い。アピールする工夫が要るのではないか。

⇒府やウイメンズカウンセリング京都が作成しているような名刺大のカードやシールを作成しようと考えているので、良い言葉等があればぜひ教えて欲しい。

●生理用品を無料で配る機会をつくり、話し合ってみるとか、頼れるところのない若い人が集まれるような場は作れないか。ひとり親家庭があつまれる「子ども食堂」は宇治ではいくつかあるか。

⇒数は把握していないが、宇治市内にはいくつかあると聞いている。

●小児科医の仕事をしているが、最近はお父さんが子どもを連れてくるケースが増えている。昔ではお父さんがだっこ紐なんて考えられなかったことだ。今はお母さんと泣く子もいれば、お父さんと泣く子もいる。皆さんの男女共同参画の努力が少しずつ浸透してきている。子宮頸がん・乳がん検診の受診率が非常に低くなっている。20代30代の女性で罹患率はとても増えている。妊娠をしてからわかるケースも多く、何かしなければ検診率は上がらないのではないかと考える。

⇒プラン作成時とそれ以降では、数の取り方が変わったと聞いている。50%は国の目標値と合わせていると聞いている。あらゆる方向で啓発されていると聞いているが、なかなか伸びないというところである。私たちも方法を考えて担当課と相談しながら協力していきたい。

●人間ドックを受けていて、ここに含まれない場合もあると思うが、学生や未婚の人は難しいが、何らかの啓発が必要と思われる。自由診療として受けている人もいるが、コロナと関係なく受診率が低いのは何か工夫が必要ではないかと思う。

●9ページの1-1-7職員研修が0となっているのはコロナで難しくなっているのはわかるが、オンライン等で実施できないのか。今年度も実施できないのか。

⇒コロナの影響で、密を防ぐことや時差勤務等を行っていたため、できなかったが、研修は必要ということで、今年度は9回実施をするということで、どんな研修を実施するということも決めている。

●基本方向1の③女性問題アドバイザーの派遣は、広く派遣を呼びかけるとともに「可能な場所」となっているが、意味がわかりにくい。行きにくいところがあるのか。

⇒いろいろなところに声をかけて実施していく予定である。できる限りという意図であるので、積極的に実施していきたい。

●28ページの上の育児や家事等に「男性が楽しんで取り組める」というのは違和感がある。これまで、女性は楽しむか楽しまないかにかかわらず家事も育児も介護もやってきた。この表現は何とかならないか。男性の自覚を促すような表現をしてほしい。

⇒「楽しんで」を「積極的に」に変更したい。

●「リズム」は180か所でどれくらいのリズムを配布していて、どれくらい捌けているのかが知りたい。

⇒各箇所に10～20枚、公共機関や、駅、病院、銀行等においている。どのくらい捌けているか把握はしていない。反響もあまり聞いたことがないので、把握できていない。

●イベントが実施できるようになったら、どういうところで把握したか、参加者アンケートをして「リズム」とおして情報を把握したかを取ればよいのではないか。

⇒参加者にアンケートは実施しているが、きちんと把握をして今後につなげていきたい。

●リズムもそうだが、相談等も数値で報告があるが、最終的にどういう効果、成果に結び付くのかわからないことが多い。相談等がどういう支援につながったかもう少しわかる報告だとわかりやすいと思う。ネットワーク会議を持っているので色々なところとつながりながら支援していると思うので、そのあたりを教えていただけるとよいと思われる。

⇒相談については、目標値を「実施」と表記して、目標値は設けなかった。しかし、相談回数は把握する予定であり、どの課につないだか、どの課からつながったのかという件数は把握し、報告できればと考えている。

●アンケートは毎年実施するのか。

⇒昨年度は、計画策定のために4,000件の調査を実施した。アンケートは、毎年することとしており、今年度は400件実施した。事業の周知もできるので、毎年実施していきたい。

●アンケート調査は経年の変化をみるから設問内容は変更しないのか。

⇒昨年度は第4次プランの最終年となっており、今年度から新しいプランとなるので変更は可能であるが、経年変化や国との比較をみる設問は続けて取っていくつもりである。

●「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という設問はもう古いのではないか。何とかならな

いのかと思う。もう一工夫要るのではないか。国との比較はどうだったか。

⇒宇治市が若干保守的であり、高齢になるほど賛同率が高くなっていた。設問についてはまた、委員の皆さんにご意見をいただきたい。

●14ページの3-3-3 育成学級の充実推進事業は、5学級以下にするというのは、定員超過学級は11学級あるということか。共働き家庭には育成学級が必要だと思うが満員ということか。

⇒令和2年の5月時点で11学級が定員超過となっている。環境改善については検討をされていて、新施設の整備についても検討はされている。

●定員超過が11学級でも○となっているが。

⇒1ページの評価基準に基づき、目標値のちょうど70%であったので○としている。

●宇治市の職員登用のことだが、「人事の登用は、男女に関わらず職員の能力・実績に基づいて公正・公平に行うものであり、登用の判断基準となる能力発揮の機会を積極的に提供し、職域の拡大を図る」とあり、基本が書いてある。仕事と家庭の両立の大変さを知っている女性たちが昇進すると、喜びよりショックを受ける人も多い。不安だからだ。昇進を後押しするような職場環境づくりが必要であるが、この表現だと普通にやっっていく、というように見える。

●この記述は引っかけ。「人事の登用は男女に関わらず・・・」ということはずっと言われてきたことで、これでは男女共同参画の積極的な促進にはつながらない。男女共同参画を進めていこうということであればこのような書き方はおかしい。特に女性の管理監督者が増えるような工夫をここでは表現しなければならない、これだと従来と同じである。ポジティブアクションの工夫に触れたり等何か必要である。

⇒人事のことであるが、人事課にも伝えてどんなふうに見えるか考えていきたい。